● 第３回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【 問題 】(「歴史総合」)

第1問

問 2　今日の授業に関心を持った張さんは，授業の内容に関連する歴史を図書館で調べ，**抜き書き**を作成した。**抜き書き**から読み取れることや，**抜き書き**に関して述べた文として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 2

抜き書き

・スモッグ(smog)は，smoke(煙)と fog(霧)の合成語で，1905 年にロンドンの汚れた空気を表現する際，初めてこの言葉が用いられたと言われる。
・1909 年にスコットランドのグラスゴーで，石炭を焚(た)いて排出した煤煙(ばいえん)と霧によって 1,063 人が死亡し，スモッグが社会問題と認識されるようになった。
・その後，従来のスモッグとは異なる有害物質を含んだ光化学スモッグが発生した。世界で最初の光化学スモッグはロサンゼルスで発生し，これが新たな大気汚染と判明したのは，発生から 10 年後の 1957 年であった。
・日本では，窒素酸化物を空気中に出さないなどの工夫が重ねられた結果，光化学スモッグは減少したものの，いまだ完全に解決しておらず，東京都で光化学スモッグ注意報が発令された日数は，2023 年で 4 日，2024 年で 15 日だった。

① スモッグという言葉が初めて用いられた時期のイギリスは，「世界の工場」として工業生産が世界一であった。
② スモッグで 1,063 人の死者が出た当時のスコットランドに，イギリスは 3 C 政策の拠点の一つを置いていた。
③ 世界で最初の光化学スモッグが発生した当時，その発生国は，ヨーロッパ諸国に対する経済援助を提案していた。
④ 日本では，大気中に有害物質が出ないような工夫が重ねられた結果，21 世紀に入って光化学スモッグは発生しなくなった。

©Kawaijuku Educational Institution.

【 ポイント 】

正解:③

文章から情報を読み取り、教科書で学習した基本的な歴史的知識と合わせて正誤を判定する問題です。

①スモッグという言葉が初めて用いられたのは、抜き書きから「1905 年」と読み取れます。一方、イギリスが産業革命を経て世界最大の工業国となり、「世界の工場」と呼ばれたのは 19 世紀半ばのことです。1870 年代からの第2次産業革命はイギリスではなくアメリカ合衆国・ドイツが中心であり、19 世紀末にアメリカ合衆国はイギリスを抜いて工業生産世界一となっており、誤文です。②イギリスの3C政策の拠点であるカイロ・ケープタウン・カルカッタは、それぞれエジプト・ケープ植民地・インドにあり、スコットランドにはないので誤文です。③世界初の光化学スモッグが発生したのは、抜き書きから「1957 年」の 10 年前の 1947 年であり、発生したロサンゼルスはアメリカ合衆国に位置します。1947 年のアメリカ合衆国は、ヨーロッパ諸国に対する経済援助計画であるマーシャル=プランを発表した時期であり、正文です。④抜き書きの最後から 2023 年・2024 年の東京で光化学スモッグ注意報が発令されたことが読み取れるので、誤文です。

①を正文と判断した人は、「歴史総合」で扱う様々な時代のイメージを正しく把握することに努めましょう。歴史の問題を解くためには、時代を正しく理解していることが必要です。②を正文と判断した人は、「歴史総合」で出てきた地名は、教科書の地図を活用して位置を確認しましょう。空間の把握も「歴史総合」では必須です。④を正文と判断した人は、問題に付いている資料・会話文などの文章は必ず読みましょう。文章の読み取りが必要な正誤判定問題ほど、正しい選択肢に見える「上手なうそ」が含まれます。「上手なうそ」に引っかからないために、付いている文章はとにかく落ち着いて読みましょう(以上の注意点は、すべて「世界史探究」にも言えることです)。

【 問題 】(「世界史探究」)

第4問

A 1班は，インカ帝国における駅伝制について調べ，**資料**を見つけた。**資料**から読み取れる内容について，生徒と先生が話をしている。

資 料

ビラコチャ＝インカの業績や征服についてさらにつづけると，彼は歴代のどのインカよりも優れた指導者であった。彼は戦いを好み，立派な戦士でもあった。ビラコチャ＝インカは実に数多くの事柄を命じ，指図したが，それらは今でもなお，守られている。さらに，彼は王道に，彼らがチョタスと呼んでいたバラ(注1)ごとに，トポ(注2)を配置するよう命じた。同じく，ビラコチャ＝インカは，王道にはどこにも飛脚であるチャスケスを配属するように，つまり各トポに4人のチャスケスを常駐させるように命令したが，それはチャスケスがインカからの命令や食料を携えて，できるだけ早く領土を駆けめぐることができるようにするためであった。

(注1) バラ：スペインで用いられていた長さの単位。

(注2) トポ：宿駅を指すとされている。

©Kawaijuku Educational Institution.

問 2　生徒たちが作成した**メモ**の正誤について述べた文として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 22

片桐さんのメモ

資料で言及されている駅伝制において「チャスケス」と記されている存在は，アケメネス（アカイメネス）朝の駅伝制では「王の目」「王の耳」と呼ばれた。

百瀬さんのメモ

大モンゴル国（モンゴル帝国）で整備された駅伝制と同様に，**資料**で言及されている駅伝制においても，整備当初から宿駅に馬が配備されていたと考えられる。

① 片桐さんのメモのみ正しい。
② 百瀬さんのメモのみ正しい。
③ 二人とも正しい。
④ 二人とも誤っている。

【 ポイント 】

正解:④

資料の文章から情報を読み取り、教科書で学習した基本的な歴史的知識と合わせて正誤を判定する問題です。

片桐さんのメモについて。資料から「チャスケス」が飛脚であることが読み取れます。一方、アケメネス(アカイメネス)朝の「王の目」「王の耳」は、地方長官サトラップを監視するために王が派遣した監察官ですから、手紙などを運ぶ飛脚とは役割が異なるため、誤文です。百瀬さんのメモについて。資料の駅伝制は「インカ帝国の駅伝制」との説明があります。インカ帝国など中南米の先住民文明では、馬などの大型家畜は利用されていませんから、「整備当初から宿駅に馬が配備されていた」とは考えられず、誤文です。

文章・グラフ・表などの資料や会話文がある場合、「飾り」であることはほぼなく、読み取りが必要不可欠です。落ち着いて資料や会話文を読み取りましょう。

また今回、「王の目」「王の耳」という言葉は知っていたけれど、その役割を知らなかったため、片桐さんのメモを正文と判断してしまった人、中南米の先住民文明で馬が利用されていなかったことは知っていたけれど、百瀬さんのメモを正文と判断してしまった人がいると思います。共通テスト「歴史総合，世界史探究」は、用語の単なる暗記では解けない問題が多いです。用語そのものを問うのではなく、出来事の内容・特徴や因果関係・背景・影響などを問う問題が多いためです。内容の理解に努めましょう。そして、獲得した知識が問題を解く際に活用できるかどうか確認するために、問題演習にも取り組みましょう。

©Kawaijuku Educational Institution.